

町内の仮設住宅 228戸が完成

熊本地震からの本町の復興に向けた新たな一歩

熊本地震の被災者支援のための応急仮設住宅6団地全228戸の建設完了、入居者への引き渡しが行われました。東日本大震

災を教訓にして建設した住宅は、防音や断熱、手すりやスロープを設置するなど、住民に配慮した工夫をしています。

東日本大震災を教訓にしたバリアフリーの住まい

熊本地震の被災者支援の一環として、町が建設を進めていた応急仮設住宅6団地全228戸が完成しました。

町では、4月29日（金）に白旗仮設住宅90戸の建設に着工。入居希望調査に応じて追加分を建設し、9月16日（金）に白旗第3仮設団地が完成し、全228戸の建設完了、入居者に

引き渡されました。

床や畳表に県産材を活用したほか、隣家と隔てる壁を丈夫にし二重窓も備えるなど、防音や断熱にも配慮。玄関やトイレなどには、手すりやスロープなども設置し、お年寄りや体の不自由な方にも利用しやすいよう工夫しています。

また、東日本大震災において、仮設住宅で孤独死が発生したことを教訓に、各部屋に縁側や休憩用のベンチなども設置するなど、入居者同士の交流やコミュ

ニティづくりに配慮したものとなっています。

完成した仮設住宅団地

- 白旗仮設団地・90戸
甲佐町早川2100番地
- 町営白旗グラウンド用地
甲佐町第1仮設団地・48戸
甲佐町田口383番地2
(宇城鉄筋団地付近)
- 乙女第2仮設団地・26戸
甲佐町田口1015番地1
(森川健康堂(株)研究棟敷地)
- 乙女第3仮設団地・31戸
甲佐町田口4263番地
(町グリーンセンター用地)
- 白旗第2仮設団地・19戸
甲佐町早川2100番地
(町営白旗グラウンド駐車場用地)
- 白旗第3仮設団地・14戸
甲佐町糸田438・1
(民有地)



▲森川健康堂(株)研究棟敷地の乙女第2仮設団地

▼9月に完成した白旗第3仮設団地



▲交流を持てるよう設置されたベンチ

新しいみんなの集いの場

入居者同士の交流などを図るために町内の仮設団地に設けられた談話室では、新たなコミュニティが生まれています。

住民みんなが集いくつろげる空間を目指した場所

今回建設された仮設団地には、「みんなの家」と名付けられた談話室や集会所が設置されています。

「みんなの家」とは、熊本地

震の被災者の心の痛みを最小化し、少しでも安らぎを感じられるように、コミュニティづくりにつながるような空間として仮設団地に設計されました。県産の木材を使用し屋外に縁側を備えたデザインとすることで、いつでもだれでも気軽に立ち寄ることができ、入居者などのコミュニケーションの空間として活用していただきます。

新しいコミュニティの輪が広がる暮らし

談話室や集会所を入居者の集いの場として、地域を超えた新しい人との出会いやコミュニティの輪が広がっています。

白旗仮設団地の「みんなの家」談話室では、仮設住宅入居者で結成された「ゆっくり体操クラブ」や、子育て中の親子と仮設住宅入居者などが交流をする「子育てサロン交流会」などが開催されています。



▲乙女第3仮設団地に建設された「みんなの家」談話室

健康体操でつながる住民の輪

「ゆっくり体操クラブ」



▶スクワット運動をする参加者たち

ゆっくり体操クラブ（池田れい子会長）は、毎週水曜日に白旗仮設団地の「みんなの家」で活動しています。

メンバーは、同団地の住民と早川区（西村泰紘区長・72世帯）の介護予防サポーターを含めた約20人。9月21日（水）に開催されたクラブでは、なるなる体操や片足立ち1分間、スクワットなどで体を動かしました。

指導を行った平雄二郎さん（田原区）は、「地元では、介護予防として取り組んでいました。団地はいろんな地区から人が集まっているので、体操を通じて住民同士のつながりづくりのきっかけになれば」と話しています。

子育て中の親子と入居者が交流

甲佐町子育てサロン交流会



▶サロンに訪れた親子と交流する参加者

9月16日（金）白旗仮設団地の「みんなの家」で、甲佐町子育てサロン交流会が開催されました。

同交流会は、子育て家庭の情報交換や親同士のつながりを作り、地域との交流の中で子育てしやすい環境を提供することを目的とした「子育てサロンいとだ」が主催しています。今回は、仮設住宅入居者と子育て中の親子との交流を目的として、白旗仮設団地を訪問して開催されました。

交流会では、参加した親子と入居者たちが順番に自己紹介して交流を深めました。今後は、同団地で開催される体操クラブなどと日程を合わせるなどして開催される予定です。